

祇園新橋地域のまちづくりをすすめる、ひとつの集まりとして「祇園新橋まちづくり部」は活動をしています。「祇園新橋まちづくりニュース」は、これからのまちづくりを皆様とともに考え、その取組をお知らせするニュースです。

発行：祇園新橋まちづくり部

Email: gionshinbashitatumi@gmail.com

HP: <http://gion-shinbashi.blog.jp/>

## 第 58 回意見交換会のご案内

### ～ 観光マナーの啓発も考えよう！ ～

【日時】2019年9月10日(火) 午後1時30分～

【場所】登希代の二階(新橋通縄手の上)

【申込】申込は不要です。気楽にご参加ください。

8/24(土)元吉町の地蔵盆の朝、辰巳大明神の境内に排せつ物が放置されたままとなりました。悪質なガイドは、「白川の植込みで用を足しても良い」などと案内するようです。今回は、京都市の観光 MICE 推進室をお招きし、祇園新橋での観光マナーの現状について意見交換や、対策について考えてみたいと思います。

祇園新橋を大切に思う皆さまのご参加お待ちしております！

#### 報告

#### 新潟大学「古町花街の会」が訪問されました。

8月21日(水)新潟大学都市計画研究室の岡崎篤行教授が主宰される「古町花街の会」から、岡崎教授と、大学院生3名が訪問され、奥田代表と秋山副代表が対応しました。

「古町花街の会」では、歴史的景観が多く残る新潟の「古町花街」において、歴史的町並みの保全、花街文化の継承・広報等の活動を行うことで、新潟市の観光振興や地方創生に繋げることを目標とした活動をされています。取組を進める中で、祇園新橋では自治の力で地域を守っていることを知り、取組の詳細を聞くために訪問されました。

#### 【新潟大学「古町花街の会」について】

- ・岡崎教授自身は「先斗町景観づくり協議会」の顧問も務められているとのこと。
- ・新潟は東京型のお茶屋。芸・舞妓さんは半玉さんや振袖さんと呼ばれている。
- ・地方の花街の事例として：金沢の花街(東茶屋街)では地産のものしか販売してはいけない決まりがあるため、金箔とお麩屋さんが多い。

#### 【祇園新橋景観づくり協議会の取組について】

- ・事前協議によって、地域外から来られる方にも、地域の慣習を知ってもらったり、顔の見える関係づくりを目指しています。
- ・景観＝「目に見えるもの」だけではなく、臭いや音も含め、花街にふさわしい質をお願いしています。
- ・撮影マナー啓発について
  - ・祇園はコスプレ通りではなく、住民が生活しているまちです。
  - ・文化の違う海外の方に、どのように伝えるかが課題。

撮影マナーの啓発以外にも、

- ・新橋通の無電柱化の取組、白川南通の遊歩道化の取組、京都の各花街でも火災があり、防災にも取り組んでいることをお伝えしました。

## <あなたの知らない「花街」の世界>

8月の意見交換会では、末吉町の坂田憲治さんを講師にお迎えして、花街の踊りの話を始め、各花街の歴史や特色、現在の貨幣価値に換算した場合のお花代の話など、花街の過去と現代に通じる課題などについてお話していただきました。かつて花街だった地域でも、以前は残されていたお茶屋建築が失われているということもお話され、建物だけでなく、花街文化の減少も危惧していました。



8月6日(火)  
参加者は19名でした。

(坂田さんのプロフィール)

- ・京都検定1級に2年連続で合格。京都産業大学日本文化研究所 上席客員特別研究員。
- ・京産大の大学院で勉強中。
- ・お茶屋「美の八重」主人、祇園祭「鷹山」囃子方。

### 1. 花街の芸能(踊り)について

- ・都をどり：明治5年(1872)3月13日～5月末まで80日間の興行だった。  
←明治維新で東京遷都になった際、長州出身の榎村正直が、一力の杉浦治郎右衛門、3世井上八千代と協力し、経済活性化と人集めのために都をどりを始めた。
- ・会場は祇園新橋の「松の家」だった。
- ・同年に(先斗町の)鴨川をどりも始まった。
- ・明治の初め、花街では日本舞踊・京舞篠塚流が流行った。  
←初代は歌舞伎振付師(?)。舞台映えする大らかな振りが3世中村歌右衛門に認められ、各花街で取り入れられた。
- ・当時主流だった篠塚流は三代目以降一時絶えたが、郷土史家の田中緑紅らの働きかけによって再興(5世篠塚梅扇)。  
←祇園祭では7月10日に行われる祇園祭のお迎え提灯の「小町踊り」として見る事ができる。

### 2. 京都の花街の歴史・特色

- ・祇園：四条通沿いの「祇園」と祇園新橋一帯・内外六町の「八坂新地」に分かれていた。
- ・明治7年(1874)、花見小路が開通。一力の西に桜を植樹→花見小路の名称に。
- ・明治14年(1881)、甲部と膳所藩邸跡の乙部に分かれる。金銭的な問題が原因?  
←昭和29年(1954)、乙部=劣っているとの印象から、東新地(祇園東)と改称。
- ・島原：日本最初の遊郭。江戸の吉原とは違い、男女の出入りが自由で解放的だったと言われている。
- ・正式には「西新屋敷」。昭和52年まで営業していた。
- ・島原では、お茶屋は揚屋(あげや)と呼ばれ、角屋(すみや)さんが有名であった。置き屋では輪違屋さんが有名。名残がある建物もどんどん壊され今は少なくなりました。  
←保護できるものは早急に対処し、守っていかなければならない。
- ・二条新地(川端二条東入)：明治20年(1887)京大ができるため、風紀上好ましくないとなくなつた。  
←以前はお茶屋らしい建物が残っていた。記録しておかなかつたことが悔やまれる。

お花代を現在の貨幣価値に換算すると…

(実際は基準や算出方法が一律ではないため、ややこしく難しいとのこと)

夕刻より深夜12時頃までの花代の比較		夕刻より深夜12時頃までの花代の比較	
島原女郎	花10本 20匁	島原女郎	花10本 30,000円
祇園新地遊女芸者共	花12本 36匁	祇園新地遊女芸者共	花12本 54,000円
宮川町遊女芸者共	花12本 32匁4分	宮川町遊女芸者共	花12本 48,600円
先斗町遊女芸者共	花18本 3,150文	先斗町遊女芸者共	花18本 44,100円
上七軒芸者 (夕刻より明け方迄)	花36本 57匁6分	上七軒芸者 (夕刻より明け方迄)	花36本 86,400円
七条新地	花12本 2,400文	七条新地	花12本 33,600円

### 3. 報告事項

- ・元吉町ビル→ホテルになることが決まった。
- ・木造住宅の火災が多いので、地域の飲食店を京都市の景観課と消防が合同で巡回した。